

平成26年度 第1回通学区域審議会会議録

開催日時：平成26年7月4日（金）午前10時から

開催場所：習志野市教育委員会1階大会議室

出席者：審議会委員 椎名勝委員（会長）、荒木和幸委員、木村孝浩委員、諏訪晴信委員、由利聡委員、竹谷嘉夫委員、宮内宏和委員、佐賀正栄委員、小林由希子委員

市側（小熊副参事） 植松教育長、市瀬学校教育部参事、田久保学校教育部次長、小熊学校教育部副参事、小野寺教育総務課長、内山管理主事、利根川管理主事、本間管理主事

傍聴者なし

会議の概要

【審議】 「東習志野2丁目18番の通学区域について」

諮問 「東習志野2丁目18番の通学区域について」を読み上げ

小熊副参事より、東習志野2丁目18番の通学区域について、資料に基づいて説明

質疑応答

（竹谷委員） 資料について、東習志野小の推計はあるが、実花小学校のものもあれば、比較しやすい。

（荒木委員） 想定の通学路の案の件だが、以前は基本的にはあたご橋を予定していたと思う。手すりが低くて子どもが使えないとすれば、子どもたちの通学路というだけでなく、低い手すりを改善しなくてはいけないということになる。コンビニの前であることの危険性は確かにあると思う。横断歩道を渡らせる危険性とこちらを通らせる危険性をどういうふうに考えているのか。あたご橋の手すりを改修するとしたらどれくらいの予算がかかるのか。

（諏訪委員） あたご橋は、昭和40年代に、マラソン道路を渡らずにマラソンができるようにできた。マラソン道路沿いは陸道橋で階段になっていない。手すりの高さは40年代と現在では基準に差があり、40年代は、約80センチで、現状は約120センチになっていると思う。3年ほど前に市議会で危険性はないかという質問があった。陸道橋は子どもが端に行かないようにフラワーポットを置いているが、歩道橋には置いていない。改修となるとかなりの額がかかる。

市としても課題として受け止めているが、橋がかなり古いことも含めて現状ではよい対策は見つかっていない。地域等からは改修の要望はあがっていない。市としては現状の課題ととらえている。

(小熊副参事) あたご橋の安全上の課題から現地調査を重ねていく中で、また学区、指定校を変更しようとする実花小学校に対して五番街が近い側の棟だろうということから現地調査をする中で、現状、あたご橋だとやや東に戻らなくてはならないことを確認した。正面を渡るのが一番近い。いくつか課題はあるが、安全上の確保ができるということで、あたご橋を使わずに通学路を設定するとして学校とも協議をしている。その方向で進めていきたい。あたご橋については今後も使用することから、通学区域審議会でも話題になる。関係機関と相談しながら進めたい。

(宮内委員) 教室の不足数については、放課後児童会だが、27年度から現状の3年生までを6年生まで受け入れることから、かなりの増加が見込まれる。教室不足数はそれをふまえてのものか。

(小熊副参事) 放課後児童会は青少年課が管轄のため、十分協議をしていかなければならない。放課後児童会は ABCD 棟の D 棟を使用しており、そこは、なるべく動かさない方向である。しかし増加も考えられるため検討はしていかなければならない。現地の確認から D 棟を普通教室にするのは難しい状況から、A～C 棟の中の教室数で説明をした。

(木村委員) 壺～四番街は弾力化ということで、決定されれば、来年4月1日から運用されるとなると、信号機はどうなるか。

(小熊副参事) 五番街から西側に渡ることについては、通常ユトリシア住民が渡るにしても正面に横断報道がないということは課題である。現在ある横断歩道は、実籾駅側にかなり歩いていかなければならない。信号機もだが、まずは横断歩道の設置を習志野警察と協議をしている。それがつくことで安全面で保護者にも説明をすることができる。それができないときはどうするか考えていかなければならない。交通安全に関する人的配置もせざるを得ないかもしれない。信号機の設置に向けて努力していきたい。

(木村委員) 横断歩道の設置をするということでよいか。

(小熊副参事) できればそうしたい。予算が伴うことではあるが、通学路と決まった以上はそういう対応をしていきたいと強くお願いしていきたい。

(木村委員) 弾力化をした場合、壺～四番街の児童が何人か通うと思うが、対応を検討、協議

を要望する。

(小熊副参事) 壱～四番街の子どもが通うとなったとき、どれくらい通うことになるのかという課題もある。現地の確認、通学の方法の確認を細かくしていく。五番街と壱～四番街の動きは違うだろうと考える。あたご橋のことも含めて検討していかなければならない課題である。

(会長) 実籾外科前の信号機からあたご橋の信号機との距離は。習志野警察交通課では距離、幅によって信号機の設置ができるなどの対応はあるのか。

(小熊副参事) 距離が近すぎると信号機の設置が難しいという状況はあるようだ。通学路安全対策協議会や通学路の改善要望等で信号機の設置状況をみると、様々なケースがある。事情を説明していかなければいけない。

(荒木委員) 次回、今後のスケジュールを出してほしい。議会の議決も経なければならない。平成27年4月1日実施するには、信号機設置を含めてスケジュールを示してほしい。信号機設置も議会を通して直後につくわけではないだろう。この審議会で通しても間に合わない、つかないとなったら、また通学路はどうするか、になってしまう。それと推計値は今回どのような計算で出しているのか伺いたい。

(小熊副参事) スケジュールについては、安全上必要だと考えている。基本的には、7月下旬までに答申をいただいて、すぐに教育委員会議にかけさせていただきたい。

指定校変更については、教育委員会議の規則改正になるため、細かな計画を出していきたい。現状としては、警察とのやりとりをしているので、さらに進めていきたい。推計値は今回、ユトリシアは入っていない。

この考え方は、4月1日現在における東習志野小学校における学区の世帯数をベースに各学年ごとの状況、具体的には東習志野小の学区は5622人いる。1年から6年まで917名いるが、それで割り返した発生率でみている。

(荒木委員) これは五番街を含まない推計値か。

(小熊副参事) 東習志野小学校はこのままいったら、こうなる、教室が足りなくなる。ということを示している。

実花小学校は学区が変わった場合はどれくらい児童が通学するのだが、現状でユトリシアから東習志野小学校に通学している子どもたちは壱番街から四番街の一部で246名いる。全校児童971名に対して、25.3パーセント。246名を4で割ると、1棟当たり61.5になる。1棟当たり、50～60名とすれば、1学年10名前後が実花小学校に動くであろう。それを推計値にプラスする。

- (荒木委員) 五番街の推計値は、壺、弐、参、四番街から出して、それが含まれたうえで2教室足りないという解釈か。
- (小熊副参事) この推計に五番街は入っていない。五番街が増えれば、さらに50前後増えるであろう。
- (諏訪委員) 通学路について、ユトリシアから北側のマラソン道路に直接出られる出入口はないのか。
- (小熊副参事) ある。
- (諏訪委員) 横断歩道と押しボタン式の信号機の設置については、4月に通学区域を変更した段階で、予測とすれば、4月に県は習志野市からの要望を受け止めたとしても設置はできない。年度以降の予算がなければ設置はできない。ましてや、南側の商店の前に既存の横断歩道がある。横断歩道と横断歩道の距離に一定の制限がある。もし北側に出入口があり、マラソン道路側に出れるのであれば、マラソン道路上にいったん出たうえで、あたご橋の陸道部分を渡っていく、あるいは歩道橋を渡ったうえで、大型店舗の手前を左に折れて一方通行で実花小学校に入って行くというルートを考える方が自然ではないか。あたご橋の安全性については、持ち帰る。
- (竹谷委員) 弾力地域に関しては、現状として実花小学校に通いたかったが、東習志野小学校に行かざるを得なかった子もいるからよいだろう。コースについては、信号がつくか、つかないかも今はわからない。だめだったとなったらやり直しになるため、いくつかのパターンを考えておかななくてはならない。
- (佐賀委員) 推計値の出し方が難しい。弾力化にした場合、どこまで流れるかということもある。
- (小熊副参事) 推計値が難しいということは事実である。五番街は今年度販売予定と聞く。それまでにある程度方向性を出しておかないと混乱する。ただ、今回の変更で解決とはとらえていない。再度問題が生じたときには、通学区域審議会にかけさせていただき、検討していく。
- (荒木委員) 7月末に答申を出すとなると日程としては？
- (小熊副参事) 五番街の販売のスケジュールの関係で、短い時間期間で設定をさせていただいている。いろいろな課題があれば、その限りではなく、もう少し伸ばさなければならぬとも考えている。今回意見をいただき、それをもとに答申案をまとめさせていただきたい。それを委員さんに提示して進める。
- (竹谷委員) 急に大規模開発があると、予想を上回る人数が入ってくる。推計値もどうかわか

らない。大事なものは、早めにやってみて、細かく審議会で話をし、細かく変えていくこと。住民に対しても変わるかもしれないことを告知しておく。弾力についてもどうなるかはわからない。

(小林委員) その都度変わるかもしれないというのもわかるが、明日に変わると急にいわれても困るのではないか。

(小熊副参事) 学級増に対する対応として、特別教室を普通教室につくりかえたりし、何とか対応できていた。将来をきちんと見通して、今後どのような学校をつくっていくのか、適正規模、適正配置という考え方もあるかもしれないが、地域の声も聞きながら、今後学校をどうしていくのか検討していきたい。

(宮内委員) 適正規模・適正配置が出てきたが、PTA 連絡協議会として回答を教育委員長あてに要望しているため、お願いしたい。

(小野寺課長) 学校の適正規模適正配置の考え方、学校の防犯について要望を受けている。教育委員とも協議をして答えていきたい。

(由利委員) 数字が出ているが、余裕をもった推計値を出していけばよいのではないか。

(会長) 弾力化については、プラスに働くのではないか。
五番街のことについては、早めに答申という形で取り上げないといけない。要望、改善、課題がいくつか出た。おおかた通学路の安全といえる。期間が限られているので、答申案をまとめていただきたい。次回は答申案について審議したい。